

「ゼロカーボンシティみうら」宣言

～2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて～

近年、日本のみならず、世界的な規模で猛暑や集中豪雨等の異常気象による災害が頻発しており、私達の生活環境や財産、生命までも脅かす状況になってきています。これまでに経験したことの無いこれらの気候変動は、地球温暖化に起因するものと思われ、地球温暖化対策は、人類にとって喫緊の課題となっています。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命前からの平均気温上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力をする」という目標が示され、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標を達成するには「2050年までにCO₂（二酸化炭素）の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

三浦市では、平成9年から宮川公園に風力発電施設を設置し、風力の活用を開始するとともに、平成22年度から宮川公園に近接した三浦バイオマスセンターにおいてバイオマスエネルギーの活用を開始するなど、かねてより地球温暖化防止に大きく貢献する再生可能エネルギーの積極的導入に取り組んできました。今般、宮川公園内において風力発電施設の再設置が終了したこの機会を捉えて、三浦市は再生可能エネルギーの積極導入をはじめとする地球温暖化対策を進め、2050年に二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティみうら」の実現を市民や事業者等と一体となって目指していくことを宣言します。

令和2年5月7日

三浦市長 吉田 英男